新潟支部会報

一般社団法人　大学女性協会新潟支部
2023年11月　No.11

目次

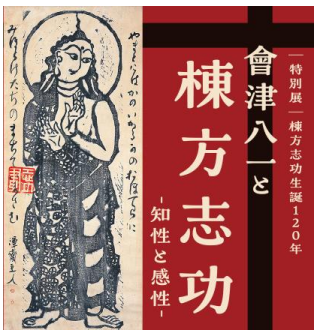
秋の親睦会・・・・・・・・・・　1頁
男女共同参画部会公開学習会・・　2～5頁
支部の動き　・・・・・・・・・・・　6頁
活動報告　・・・・・・・・・・・・　7頁
お知らせ　・・・・・・・・・・・・　8頁

秋の親睦会

「會津八一記念館展覧会見学とランチ」

担当　親睦部会
報告　親睦部会長　井上里恵子

日時：2023年10月6日（金）　　参加会員：7名



暑さ寒さも彼岸までの言葉通り、急に秋の気配が感じられるようになった10月6日、コロナ禍以来4年ぶりの秋の親睦会を親睦部主催により開催いたしました。

メディアシップ5階の會津八一記念館で「會津八一と棟方志功-知性と感性」を同館学芸員の湯淺健次郎さんのご案内で鑑賞した後、2階の四川飯店で湯淺さんを囲んで四川料理を楽しみ歓談いたしました。

2023年は棟方志功（1903～1975）の生誕120年にあたり、この展覧会は會津八一（1881～1956）と棟方の親交を紹介するものでした。

會津八一は1881年新潟市古町通5番町に生まれ、名前の由来は8月1日生まれで八一。書家として歌人として、また東洋美術史家として活躍し、秋艸道人という号で多くの書や歌を残しました。

棟方志功は青森市に生まれ、ゴッホの油絵「ひまわり」に衝撃を受け、「わだば日本のゴッホになる」と画家を志し、その後「板画」（版画）の世界で独自の境地を拓きました。志功は自身による版画を板に彫る画「板画」と、肉筆画を「倭画（やまとえ）」と独自に呼び、数多くの作品を残しました。

二人は23歳も年の開きがありましたが若い頃から交流があり、八一は志功を才能あふれる芸術家として賞賛しました。当時八一は早稲田大学で教えていたのですが、志功に教壇に立って話をしてもらうことがありました。また志功は八一の短歌や広い学識に感銘を受け、早稲田での八一の授業を聴くこともあったということです。

ご案内いただいた学芸員の湯淺健次郎さんとともに

二人は昭和20（1945）年の東京空襲で被災し、八一は新潟県胎内市（現）に、志功は富山県南砺市（現）へそれぞれ疎開しますが、この間も交流は続きました。

この度の展覧会では志功の板画に八一が歌を詠んだ「普賢菩薩図・やまとには」や「文殊菩薩図・はつなつの」の珍しい作品、そして代表作である「二菩薩釈迦十大弟子」などが展示され、湯淺さんの解説で一同興味深く鑑賞することができました。

9 月 例 会

担当　男女共同参画部会
報告　男女共同参画部会長 髙橋令子

公開講演会　「ジェンダー平等を目指すインクルーシブな社会づくり」
～日本のジェンダーギャップの改善に向けて～

講　師：定方美恵子さん　新潟薬科大学看護学部長
　　前新潟大学ダイバーシティ推進室長
日　時：2023 年 9 月 7 日（木）13：30～16：00　オンラインで開催
司　会：髙橋令子　　記録：登坂美江子
参加者：11 名（新潟支部会員 7 名、東京支部 1 名、金沢支部 1 名、一般 2 名）

定方美恵子さんは、新潟大学で長年にわたり看護教育、助産師教育を担当され、新潟大学ダイバーシティ（前男女共同参画）推進室、新潟市男女共同参画行動計画にも関わってこられました。ジェンダーギャップ改善のためにはどのような支援体制が必要であるのか、支部として取り組むことは何か、考える機会を頂きました。ご講演後の質疑応答も活発に行われ、支部奨学賞に関するご助言も伺うことができ、有意義なひとときでした。

昨年講演して下さった桑原ヒサ子さんや JAUW 本部の岩村道子会長さんも参加して下さいました。この学習会は、当初は会場からハイブリッド形式での開催を計画しましたが、会場での参加希望者がおられなかったため、直前にオンライン方式に切り替えさせていただきました。

＜講演概略＞

「はじめに」

大学の中で女性研究者がどういう風に大きく育っていけるか、管理職を育てていくことをどういう風に大学は行っているのか、そんなことをお話ししていきたいと思います。

新潟大学では、母性看護学、 助産学という領域を専門としてきました。女性の体の問題とか心の問題に関係するので、ダイバーシティや男女共同参画ということに関わってみないか、と 2020 年に新潟大学男女共同参画推進室の室長になりました。新潟大学で 37 年間仕事をして定年を迎え、現在、新潟薬科大学で今春新設された看護学部の学部長として仕事をしております

新潟市の男女共同参画の審議会委員として、市の男女共同参画行動計画の立案と評価を 3 期 6 年担当しました。行動計画の中にドメスティック・バイオレンスの施策を盛り込むという課題が出て、シェルター担当者や議員の協力を得て立案を取りまとめ、行政の立場から進めていくことに関わりました。

ZOOM での学習会の様子　　最上段右が講師の定方美恵子さん

新潟大学では、女性の研究者に活躍してほしいと、食べ物の会社タケショーとの連携事業を行いました。大学と会社が共同実施機関となり、亀田製菓、技科大、環境衛生研究所などが協力機関として、研究を継続できる職場環境の実現と、女性研究者が新たな共同研究を創出できるような取り組みを実施、両立支援、上位職への登用、研究力の向上を目的とする「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業」というものです。 また、女性研究者が自らチャレンジして、もっと研究を進めていけるように、組織が応援をして育てていく、管理職や上位職を育て、若手の採用と育成およびお互いのネットワーク形成、協力体制を作っていくことが大事ではないかと、先端型といわれる事業に取り組みました。 もう4年目で資金援助が切れる年になりましたが、頑張って進めておられます。

「ジェンダー平等とは」

ジェンダー平等とは、Gender Equality（ジェンダー・イクオリティー）直訳すると「男女平等」ということ。一方で Gender Equity（ジェンダー・エクイティー）というのは「男女公正」という言葉で、個々の状況に合わせて機会や手段を柔軟に考えていくということです。言い換えますと、男女平等という言葉は男女問わず スタートラインを同じにしていくという意味で、性別に関わらず平等に責任や権利や機会を分かち合って、あらゆる物事を一緒に決めていく、社会的 文化的な男女の性差による不平等や格差をなくしていく考え方になります。ジェンダー・エクイティーという言葉は、 みんな同じ土台ではなく、性差や年齢差に合わせて、それぞれに違う土台を用意していくという、ある意味難しい課題になっています。私達はまずは、ジェンダー・イクオリティを目指し、そのうえでジェンダー・エクイティを目指す必要があります。

SDG s の中で ジェンダーに関わる部分を抜き出しますと、17 項目の３番目、「全ての人に健康と福祉を」。これは性と生殖に関する保健サービスを全ての人が利用できるようにしていくことが必要ではないか、例えば自分の体に関することを自分で決めて、望まない妊娠を防ぐことができることが 女性の健康と権利を守るためにはとても重要です。4 番目の「質の高い教育をみんなに」ということでは、全ての子供が無償で質の高い教育を高校まで受けることができるようにする。希望する進路に進学できるために性別に関わらず平等に教育を、ということが大事だということ。そして８番目の「働く」ということ、障害がある人、男性も女性も働きがいがあって同じ賃金で働ける、格差がないようにしていく。16 番目の「平和と公正を全ての人に」、女性に対するドメスティック・バイオレンスなどの被害は避けなければいけない、安心して生活することができるようにということ 。これらの項目に少しずつジェンダーの概念が盛り込まれています。

「リプロダクティブヘルス・ライツについて」

私の専門と関係するのは３番目になりますが、一つは「自己決定権」。自分で決めていくことができる権利。２つ目は「ヘルスケアを誰でも同じように受けられる権利」。これらの権利は誰にでも保障され、与えられなければいけないということで、生存の権利、安全の権利、情報にたどり着くための権利、教育を受ける権利、家族を作る、差別からの自由、などがリプロダクティブヘルス・ライツの考え方の基本にあります。女性が生涯を通じて健康に生きること、子供を産むとか産まない、産めないという女性に対しても対応されなければいけないということです。

ちょっと各論的なお話になりますが、日本の年齢階級別人工妊娠中絶件数および実施率というグラフを見ると、2020年で全体の半数以上が10代から20代です。これは望んでない妊娠のためによる中絶で、そういう妊娠を防止していかなければいけないということが日本では大きな課題です。これが何でジェンダー平等に関わる問題なのかというと、中絶は女性の体や心に大きな負担を与えます。10代20代の中絶率をもっと低下させなければいけない、誰とどんな性生活をおくるのか、産むか産まないか、いつ産むか、何人産むかということは女性が決めていく権利になりますが、そのためには包括的な性教育を行っていくこと、産めないとか産みたくない時に自分に適した避妊とか中絶にアクセスできる環境が必要になってくる。日本ではまだ試行段階ですが、経口中絶薬は多くの国で安全に使われている薬で、女性が性と生殖に関する健康と権利を守りたいと思った時に、自分の判断でアクセスできるという意味で大きな動きになってきたと思います。

「低いジェンダーギャップ指数」

国連のジェンダーギャップ指数は毎年公表されているもので、「経済」「政治」「教育」「健康」の 4 つの分野から作成されています 。2023 年日本は 146 ヶ国中 125 位でした。これだけの先進国でありながらこの値にあり、だんだん下がってきているのが実情です。ギャップ指数ゼロが完全不平等で、1 が完全平等ですが、日本は 0.647、1 位はアイスランドで 0.912 という数値です。アイスランドという国がどういう施策をとっているのかというと、同一労働同一賃金やジェンダー平等教育が法律で義務化され、企業の役員を最低 40%以上男性と女性を配置するということでジェンダー平等を図っています。日本とはそもそもだいぶ違うというか、国として法律を作ってみんなを動かしていって、 1 位が確保できています。

日本の現状を見てみますと国会議員の男女比、閣僚の男女比、行政府の長の在任期間の男女比が非常に低くて、経済的にも管理職の男女比率が低い。政治では 138 位、 経済 123 位ということで、意思決定に参加する機会が外国と比べて非常に格差が大きい。教育では大学の進学率は上昇してきているけれど、女性の場合は工学、理学の分野で特に低いという現状です。日本では経済と特に政治の部分で課題が大きいことが問題です。

「大学の中での女性問題」

大学の中で女性研究者をどういう風に増やしていくか、経験の中から一番お話ししたいところです。日本の女性研究者の現状について「男女共同参画白書」の中で、女性研究者の割合が 2022 年は 17.8%と男性に比べて非常に少ない。研究者になっていく前の段階の学生では、女子学生の割合が最も低い分野は工学、ついで理学で、理系が少ないということになります。大学の中で女性たちの研究者としての職位はどうかというと、教授が比較的多いのは保健学で、私もそうでしたけれど、看護職に女性の割合が多いので非常に多くなっています。人文科学系も女性が多く、社会科学でもまあまあ。そして注目は助手のところで、どの分野も助手は女性が多く、職位が上がっていくほど女性が登用される割合が少なくて、まあ一番使いやすい助手のところで女性割合が高いということが分かります。採用に占める女性の割合の推移をみると、一番多いのが人文科学で、医歯学は看護も含めていて横ばい、農学も女性研究者が比較的多く採用される分野でゆっくり上昇しています。理学、工学も低いながらもだんだん上昇してはいる。ライフイベント（妊娠、出産、子育て、介護等）の負担をする割合が高い、ハンディを持つ女性たちをできるだけ採用するということをしっかり出していかないとなかなか難しいのが実情です。

「理数系の女子の問題」「隠れたカリキュラム」

工学とか理学という分野の女性たちの研究者を増やしていくためには理系の女子の芽をできるだけ育んでいく教育というものが必要になってくると、新潟大学の場合は理系女子を育てるシステム作りを一生懸命にやっておりました。その中心となっているダイバーシティ推進センターの中野先生の資料によれば、小学校の時に男子は好きな科目に理科、２位に英語をあげ、女子は１位に英語、２位は理科。それが中学校になると男子は１位が社会で２位が数学、理科、そして女子は微妙に変わって国語や語学になってきます。簡単には結びつけられませんが、中学校の教員の教科別の男女比というものと生徒の好き嫌いというのはちょっと類似しているのではないか、中学校の先生方は国語や英語は女性が多く、社会、数学、理科は男性の先生が多くて、そういうところですごく先生の影響を受けていくということはないだろうか、ということが報告の中から読み取れます。 そして大学等の入学者の現状は工学とか理学に男性比率が高いという形になるわけです。男女の性別の偏りがあっていいのか、いろいろ検討していきました。

この理数系の科目には「隠れたカリキュラム」があるのではないか、例えば思い込みに基づいていく言葉がけがあるのでないか、「数学は嫌いか 。女子だもんな。」 とか、実験ではちょっと危険を伴うのは男子、女子は脇役の記録とか。進路指導で「女が物理なんかやって将来何になるんだ。」「女子は文系、男子は理系、女子は理数系が苦手」という風な負の連鎖というものが 「ジェンダー・カリキュラム」として隠れているのではないかということです。

進路選択において、中学生高校生を対象にロールモデルの紹介として、大学院生などがどんな風に自分で進めてキャリアを決めていったかと話してもらったり、企業で働いている研究者にどういうことをやりがいにして会社を選んだのかを聞くことによって、自分の進路選択を考えていくきっかけにしてほしいと、「集まれ理系女子」とか女子中高生の「リコチャレ（理工チャレンジ、理工系の仕事を体感する）」という支援プログラムで 次世代を育てる事をやりました。

「女性研究者の活躍のために」

教育研究機関で女性研究者の育成を進めていくために、仕事と生活の両立支援として「ライフイベントからの復帰支援」「ワーク・ライフ・バランス支援員の雇用」「ベビーシッター割引券」などの取り組み、活躍推進のための支援、次世代の育成のためのプログラムなどを行ってきました。これらの事業の成果として、報告書からは女性の研究者がチャレンジするきっかけを提供できたのではないかと読み取れます。

男女共同参画について大学の中で行ってきた取り組みから言えることは、女性一人一人の活躍のためには、「組織的な支援」というものが不可欠で、一人で頑張らせるということでなく、いろんなサポートができるようにサポートする側も認識の変化というものが必要。アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）を意識できる研修などで討論の機会を作り取り除いていく、特に年配の男性の先生方に分かってもらいたいと思います。それから 女性自身も、ガラスの天井の高さを引き上げて壁を乗り越えていく、というふうなことが求められていくと思います。

<質疑応答・意見交換より>

Q1: 奨学賞など女性研究者に対する支援活動の成果を社会に広げていくにはどうしたらいいか？

A1: 奨学賞などを受賞することは、学生達の大きな喜びで励みとなる。この成果を社会に広げていくには、成果を文書で報告し、後のキャリアを発信していくことがあればよいと思う。

Q2: 日本のジェンダーギャップ指数が低いが、アイスランドのように法律で規定する事が必要か？

A2: 国の法律と個人の意識づけの両方が必要だと思う。

参加者より：アイスランドは人口が少ないので女性の活躍が必然であるとのこと。それは日本の将来の姿でもあり、参考にすべきではないか。

<アンケートより>

「講演の内容についての感想」

◆ジェンダーに関して、学術的な知見、主要なデータなどに触れながら、基本を学ぶことができ、加えて、具体的な取り組みのご紹介、今後の推進のポイントなどもお聞かせいただいて、大変有意義でした。

◆リプロダクティブヘルス・ライツについて、基本から詳しいご説明をお聞きして有意義でした。

◆個人の頑張りだけではなく、組織的な支援が必要とのことで、男性も女性も意識改革をしていかないといけないのだと思います。

◆大学で女性研究者の採用・研究支援・昇進がさまざまな取り組みによって、実際的に前進していくことは、大変重要だと思います。一方で、男女差別がなぜこうも長いこと存在し続けるのかについても考え、意識化することが必要だと思います。

◆教科の好き嫌いは教科担当教諭の性差に沿う事などの「隠れたカリキュラム」、私は小学生の娘がいるのでとても身近なお話でした。

「全体的な感想」

◆新潟支部の皆様が男女共同参画についてたいへん関心をお持ちで、レベルの高い意見交換をなさっていらっしゃることに感激しました。参加させていただいてありがとうございました。

◆実施日時にもよるのかなと思いますが、多様な世代の参加、男性の参加などもあると、より良い学びの場になるように感じました。

支 部 の 動 き

・7月・

7/20　会報担当者打ち合わせ（Zoom）
7/27　会報校正終了、役員メール送信
7/28　インタビュー依頼（メール）
7/31　会報 10 号発送/会員、市内 3 施設
　　//同封：例会案内、奨学賞、会員証
7/31　受賞者へ発送//会報、本部会報、全国セミナー、CSW68、奨学賞、支部学習会
7 月　男女共同参画部会学習会準備他（メール）
7 月　国内奨学生に関する問い合わせ対応（メール）

・8月・

8/6　男女共同参画部会公開学習会を全国支部長へ案内
8/6　支部ウェブサイト更新
8/6　国際交流部会学習会講師依頼ほか打ち合わせ（メール）
8/18　本部ＨＰ更新　支部会報№10 ほか
8/29　調査研究インタビュー（Zoom）/大渕、高橋
8/29　会員へお知らせメール// 9 月例会ほか
8/31　第 3 回役員会、運営会議（ニコット）
8 月　「災害の記憶をつなぐ」寄贈の郵送作業と訪問を複数回
8 月　国内奨学生・支部奨学賞に関する問い合わせ対応（メール、電話）

・9月・

9/1　支部奨学賞受付開始（あさひ幼稚園様ご協力）
9/1　「災害の記憶をつなぐ」寄贈報告書提出/大渕
9/4　会員へお知らせメール
　　//例会、親睦会、全国セミナー他
9/4　前年度受賞者へご案内メール
　　//公開学習会、全国セミナー、CSW68
9/7　9 月例会　男女共同参画部会公開学習会（Zoom）
「ジェンダー平等を目指すインクルーシブな社会づくり」
～日本のジェンダーギャップ指数の改善に向けて～
講師：定方美恵子さん　新潟薬科大学看護学部長
　　前新潟大学ダイバーシティ推進室長
9/7　国内奨学生支部検討会（Zoom）
9/11　国内奨学生応募書類を本部に提出/大渕
9/11　会員へお知らせメール//GWI ミーティング他
9/21　調査研究インタビュー報告書の提出/大渕
9/22　調査研究委員会打合せに参加（Zoom）/大渕
9/29　会員へお知らせメール
　　//アルザフォーラム、女性財団 30 周年行事

・１０月・

10/5　アルザフォーラムポスター掲示/打越、大渕、西村
10/6　秋の親睦会「會津八一記念館展覧会見学とランチ」
10/10　支部奨学賞応募締め切り
10/11　奨学賞担当者作業（ニコット）
10/18　会報担当者打合せ（Zoom）
10/21　JAUW 全国セミナーに参加（Zoom）/大渕
10/25　支部奨学賞選考会（Zoom）
10/25　第 4 回役員会、運営会議（Zoom）
10/26　会報担当者作業（ニコット）

8/29　調査研究インタビュー

この動き Close-up

調 査 研 究
テーマ「ケアしあう希望ある社会を目指して～ユースの生きづらさを探る～」

新潟支部では今年度、本部調査研究委員会の調査「ケアしあう希望ある社会を目指して～ユースの生きづらさを探る～」に参加し、これまでに新潟の学生を対象としたアンケートとインタビューを行いました。この調査は今年度の JAUW 全国セミナーで委員会より経過が報告され、今後研究を深めます。

この調査の目的は、 〇現在のユースが抱えるさまざまな問題を把握する 〇問題の背景にある社会的障壁を認識する 〇社会的障壁の除去や解決方法を検討する 〇どのように助け合うことができるかを追究し、提言に繋げることです。「ケアしあう社会」の「ケア」はともすれば「支援する者・される者」という上下関係に陥りがちですが、お互いの力のバランスが保たれた思いやりのある助け合いとして、また、行政の福祉政策なども含めた広く包括的な概念として、委員会はとらえています。

昨年の JAUW 公開シンポジウム 2022 では「教育・ジェンダー・共生　～ユースの視点から見直そう　これからの日本～」をテーマに全国の会員が学びましたが、それをふまえ、より良い社会を作るための具体的なアクションに向けた発展的な調査研究と言えます。当会はこれまで様々な教育問題に関心を持ってきましたが、今回ユース（若い人）の視点を積極的に学び、誰もが生きやすい希望ある社会を共に実現して行きたいと願います。

活 動 報 告

◆「災害の記憶をつなぐ」の寄贈

本部生涯学習委員会により５月に発刊いたしました「災害の記憶をつなぐ」を、このたび県内の９施設・団体に寄贈いたしました。寄贈先の中には閲覧や貸し出しを行う施設もあり、多くの皆様から今後の防災に役立てていただけることを願っております。

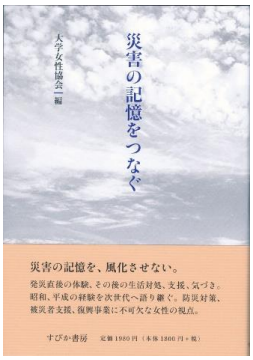
新潟市市民活動支援センター ニコット様では
災害救援活動コーナーでご紹介いただく

寄贈先名	寄贈数	閲覧	貸出
新潟市立中央図書館	1	可	有
新潟県立図書館	2	可	有
みなとぴあ　新潟市歴史博物館	1	未定	未定
新潟県立歴史博物館	1	未定	未定
新潟市男女共同参画推進センター アルザにいがた情報図書室	1	可	有
新潟ユニゾンプラザ図書閲覧室	1	可	有
新潟大学災害・復興科学研究所	1	不可	無
長岡震災アーカイブセンターきおくみらい （公益社団法人中越防災安全推進機構）	1	可	有
新潟市市民活動支援センター　ニコット	1	可	無
計	10		

「災害の記憶をつなぐ」

JAUW 生涯学習委員会の編集により「災害の記憶をつなぐ」が発刊されました。当支部からは大渕智絵、髙橋令子、田代信子が執筆に参加し、2004 年の中越地震、1964 年の新潟地震の体験記が掲載されています。お手に取ってご覧いただけましたら幸いです。

「災害の記憶をつなぐ」　大学女性協会［編］46 判 縦組み 216 頁　定価：1980 円
発行：すぴか書房　ISBN978-4-902630-31-2　　昭和、平成の災害の記憶を風化させないために、次世代へ語り継ぐ。発災直後の体験、その後の生活対処、支援、さまざまな気づき。防災対策、被災者支援、復興事業に不可欠なジェンダー／女性の視点からの発言集。



◆支部国際奨学賞（ベトナム奨学賞）の贈呈◆

贈呈式の様子。三上さん（後列左から５人目）と NVC を通して支援を受ける奨学生。

2023 年 2 月 25 日ベトナムホーチミン市で、私たちが 2022 年度から 4 年間の支援を行う**クワン・ティ・トゥー・イエンさん**へ、NVC（新潟国際ボランティアセンター）を通じ、新潟支部国際奨学賞の贈呈を行いました。この贈呈式は現地団体 SAC と NVC によって催行、NVC 代表の三上杏里さん（当会副支部長）が 4 年ぶりに現地で参加され、新潟からの真心と笑顔とともに届けてくださいました。

お知らせ

第１４回大学女性協会通常総会（2025 年度全国総会）

2025 年 5 月 新潟で開催

このたび、再来年 2025 年度全国総会の新潟開催が決まりました。2009 年以来、16 年ぶりになります。
今後１年半をかけて準備を進めますが、会員皆様のご協力をどうぞお願いいたします。
予定される内容　・評議員会　・全国支部長会　・懇親会　・総会　・公開講座　・研修旅行　ほか

第 74 回新潟支部奨学賞授与式

12/2（土）

日時：　１２月２日（土）11：00～11：50
会場：　新潟市男女共同参画推進センター
「アルザにいがた」
詳しくは同封のご案内をご覧ください

国際交流部会学習会

2/24（土）

日時：2024 年 2 月 24 日（土）13：30 より
講演：題未定（モンゴル経済等に関して）
講師：シャクダル　エンクバヤル　さん
新潟県立大学北東アジア研究所　教授

女性の活躍を願い、リーダーを育てることも目的とする当会ですが、新潟支部には国際感覚も磨くべく、担当部として国際交流部があります。新潟支部が前身の女子短大時代から支援を続け、現在４年制の県立大学として若手育成を担っている新潟県立大学に、この４月「北東アジア研究所」が開設され、当会からは大渕支部長が開設記念式典に参列いたしました。

この度、このようにご縁が出来た北東アジア研究所の教員であられるシャクダル　エンクバヤル教授をお迎えして、ご専門であるモンゴルの経済・貿易や女性の活躍についてお話を伺う運びとなりました。氏はモスクワ軽工業大学ご卒業後、国際大学大学院、新潟大学大学院にて博士号を取られ、母国モンゴルでは農業産業省局長、日本では（公財）環日本海経済研究所（ERINA）主任研究員などを経られて、2023 年４月から北東アジア研究所の教授として着任されておられます。

なお講演の形は現在調整中、詳しくは追ってご案内します。皆様ふるってご参加ください。

国際交流部会長　鈴木裕美

編集後記

會津八一記念館に入ると、自然と感性豊かな棟方志功の作品に目が行きました。

私は、棟方の作品に初めて接しました。不思議なことですが，彼の作品の強烈な個性に昔から馴染んでいたような錯覚を持ちました。棟方はまた、自分の版画を板画と言っていました。會津八一が棟方に初めて出会った時に「敏感で、熱烈で自信に強い。この人柄を見てから、私は彼の作品を改めて見直した」といい、才能あふれる芸術家として棟方を称賛したとありました。會津八一と棟方はその後、親交を結んでいくのですが、八一の人柄や人間性にも触れられて心地よい展覧会でした。　阿部美知子

新潟支部ウェブサイト　支部情報ノート

支部発信の情報　支部に集まる情報

会報担当（五十音順）
阿部、大渕、三上、吉谷

新潟支部会報 No.11
（一社）大学女性協会新潟支部
支部長　大渕智絵
http://jauwniigata.blog.fc2.com
本部サイト　https://www.jauw.org

発行日　2023 年 11 月 1 日